

専門的力量と、実践的能力を持つ教育人を育成

必要とされる専門的知識・技能・姿勢を身につけ、それにより生徒の発達に応じた授業計画を立案・実施できる学校教員の養成を行います。また、教育に関わる今日的諸課題の解決に向けた取り組みができる、“高い資質と能力を持った教育者”を育成します。



教員に必要な能力を実践的に学ぶ

学校教員養成課程では、講義や実習を通し、教員に必要な専門性と実践力を身につけることができます。2年次から小学校主免（主として小学校教員をめざす履修コース）と中学校主免（主として中学校教員をめざす履修コース）に分かれますが、私の履修コースは理科・中学校主免。地学ゼミに所属し、論文の解釈や実験、レポート作成を行っています。実験の結果を基に考察し、レポートにまとめる作業は非常に大変ですが、論理的な思考力を身につけることができます。

あなたにとって「真の強さ」とは？

生徒の本音と向き合う力。それを対話に活かし、相手の気持ちに働きかけられるコミュニケーション力を持つことだと思います。私が教育実習を通して感じたのは、生徒との距離感の難しさ。実習では本当に様々な生徒がいることを間近で体験しました。現場の教員のみなさんを見てみると、その場の状況や生徒の個性を見極め、「教員と生徒」という境界線を

絶妙に引いていることが分かります。それは卒業後に経験を積むことで分かることだと思いますが、学生時に触れたのは貴重な体験でした。常に生徒に対し、あたたかい声かけができ、親密に感じてもらえる教員を目指しています。



Profile

教育学部
武田 優花さん
(山形県出身)

中学生の時に理科の先生から質問箇所を丁寧に教えていただいた体験が忘れられず、私も教員になることを目指しています。講義で疑問に思ったことはそのまませず、すぐに教授や友人に聞いたり話し合うことで、理解を深めています。

Student Voice



■実験

ゼミの実習では、佐渡や岩室の露頭で岩石を採取し、成分の調査をしています。大変なのは石をスライドガラスに付け、薄く削っていく作業。ギリギリまで薄くしないと顕微鏡で見ても正しい結果を得ることができません。その扱いがとても難しかったです。離れた場所で採取した岩石から同じ成分が出てきたら、過去には繋がっていたのではないかと推測できます。正しい実験方法を身につけ、卒業研究にいかしていきたいと思っています。

■教育実習

実習を通して教員の大変さとやりがいに気付きました。また、「どうやったら生徒に理解してもらえるか」ということを常に考え工夫することの大切さを知りました。目に見えないエネルギーを分かりやすく伝えようと工夫した授業の後、生徒からは「とても分かりやすく、理科が面白くなりました」というメッセージをもらい感激しました。生徒を成長させるために、教員が多種多様なアプローチをすることの大切さを感じることができました。



Recreation

場所：学生談話室

講義以外の学習は自宅で行うことが多いのですが、総合教育研究棟にある学生談話室には友人と一緒によく足を運びます。構内にある学生が自由に使える場所で、図書館の会話スペース同様に、講義の際に分らなかつた点について共有したり、理解を深めたりしています。時には日が暮れるまでいることも。教育学部棟の前にある桜も好きで、春は心が晴れやかになります。



文理融合で価値を創造する ビジネスリーダーを育成

社会に必要なモノやシステムを創造する「工学」のチカラと、社会に潜在する課題を発見しチームでの解決策を提示する「マネジメント」のチカラを大学在学中に実践的に取得できる新しい学位プログラムです。ふたつを同時に学んでいくことで、卒業後、早期に自分の目標に挑戦できます。

Student Voice



■ インターンシップ

2年次には4企業に1週間ずつインターンシップに行きます。私は工学に関係する情報、建設、製造業などの様々な企業を訪問しました。ひとつの課題に向き合う際にも、前後関係やまわりとのチームワークが必要で、その調整は非常に苦労するところが多いことにも気付きました。また、社会人としてのルールや基礎マナーを学ぶ時間もあり、在学中の早い段階からこのような時間を持てたのは非常に良かったです。

■ 講義 (アントレプレナーシップ*)

アントレプレナーシップの講義では、県内企業の方たちに大学に来てもらい、企業の発展には何が必要か、実際に抱えている課題はどんなものなのか



などのリアルな声を間近で聞くことができます。それらの課題を、社会人になってからではなく、大学生の時点で気づけたのは大きな収穫でした。大学で学ぶ内容は実社会でどう役立つのかをイメージすることで、講義に対する意欲も高まります。大学の学びと社会とのつながりを感じられる時間です。

*起業家精神。また着想から発展までを成し遂げるための全てのプロセスと心構え。

Recreation

場所：中央図書館
工学部からも寮からも距離が近い五十嵐キャンパスの中央図書館は、集中して学習の時間が作れる大切な場所です。特に気に入っている席は外に向かって座れるデスク。静かな環境で、熱心に学ぶ他の学生たちに囲まれていると充実した学習時間を過ごすことができます。私は現在、英語学習に力を入れていますが、必要な教材が揃い、すぐに使うことができるのも魅力です。



必修としてのインターンシップが魅力

現代社会においては様々な課題の複合化と潜在化が深まり、単一の科学・技術的知識からだけではその解決は困難です。今、社会から求められるのは専門の知識だけを持つ人ではありません。文系・理系の枠を超えた視点から社会的課題に向き合い、実社会との結びつきが強い工学的な技術の応用により解決策や新たな価値を創造できる人材だと思います。講義室での座学や実習だけでなく、インターンシップが必修であるのも他大学や他学部にはない魅力です。



Profile

工学部
丸山 歩さん
(新潟県出身)

協創経営プログラムでは工学だけでなく、広く経営の勉強をすることができます。また、実際に企業の課題に触れることができるインターンシップも魅力です。実社会との接点を多く持つ機会を活かしていきたいと思っています。

あなたにとって「真の強さ」とは?

私は地場産業に興味があり、インターンシップや留学生との時間を通して、県内企業が抱える様々な課題や海外市場に踏み出せない現状を知りました。インターンシップで同じ時間を過ごした留学生は地場産業に触れ、製品や職人の姿、その背景にあるストーリーに感銘を受けていました。その姿を見た時に海外

展開への可能性を感じる事ができました。日本製品の海外展開に貢献できるような人材になるのが目標です。そのためには語学力はもちろんですが、それ以上に「どこに課題があり、その解決のためには何が必要なのか」ということを発見する力が重要で、それこそが「真の強さ」だと考えています。

高い専門性とコミュニケーション能力を備えた人間性豊かな医療人の育成

現代における医療の現場は国内外と広く、高度な専門性とコミュニケーション力が求められています。体系的な専門課程や参加型実習を実施し、国際的に活躍できる技術や能力の取得を目指します。



医学の基礎を土台に実践力を磨く

基礎的な医学の専門科目をしっかりと学ぶことがその後の実習にとっても役立ちます。実際に自分の手で処置を行ったり、現場の様子を見学することで、それまでに培った学びと結びつき、理解が深まったと実感できました。また、私は患者さんとの関係性を大切にする医師になりたいと思っています。臨床実習では、各科の先生の治療方法や医療スタッフの患者さんとの関わり方を見て学び、柔軟な対応力を身につけたいです。



Profile

医学部 医学科
渡邊 朱音さん
(新潟県出身)

入学当初は、医師という職業のイメージが漠然としていましたが、日々の学びを通し、自分の目指す医師の姿が見えてきました。実習では、リアルな現場の雰囲気や病院ごとの役割の違いなども現場で学び、感じる事ができます。

Student Voice



■海外実習

3年生の秋にあった「医学研究実習」では、新潟市の姉妹都市であるハバロフスクの極東医科大学を選択しました。約50日間の滞在中で、「成長ホルモンと発がん性の関係」がテーマの研究室に所属し、先生のお手伝いをさせて頂きました。学生主体の医学クラブや手技を競い合う「学生外科オリンピック」で、ロシアの医大生がみんな意欲的に学習していたのが印象的でした。現地でお世話になった院生のアレクセイさんは現在新潟大学に留学中。他の学生とも親交が続いていて、いい刺激になっています。

■臨床実習

4年生の1月から始まる「臨床実習Ⅰ」では、各科を3週間ずつ1年間かけてローテーションします。見学が中心ですが、時



には縫合をすることも。こうして現場に立つと、各科の具体的な特徴が見えてきます。先生方が何を考えて処置しているのか、患者さんへの接し方などを間近で見ていると、医師という職業がとても現実的に感じられてきます。私が最も興味のある、小児科は夏頃に実習する予定なので、とても楽しみです。

Recreation

場所：医学部棟
玄関前の庭
勉強のリフレッシュに、医学部棟前の庭のベンチに座り「ヒポクラテスの木」を眺めて過ごし



ています。医学の父と讃えられる、古代ギリシャの医師・ヒポクラテスがプラタナスの大木の下で弟子に、医学を説いたことに由来するそうです。頭を整理したい時、この木を眺めているととても落ち着きます。肩の力を抜いてくれる、私のおすすめスポットです。

あなたにとって「真の強さ」とは？

医師になることをゴールとせず、自分なりの夢を描き、信じて人生を進む力が真の強さだと考えています。2・3年生の専門課程で壁にぶつかりましたが、乗り越えられたのも夢や目標を持ち続けてきたからです。医師は知識だけではなく、患者さんと向き合い、治療の方針を判断していくことが大切だ

と思っています。そのためには、学びに加え、生活面でも幅広くさまざまなことを積極的に吸収していきたいです。また、病院実習では、先生方がどのように患者さんと関わり、他科とどのように連携を図っているかを重点的に見るよう心掛け、コミュニケーション力の向上に努めています。